

ほほえみの会

2010.12.12

2010年がまもなく暮れます。日本にはなんと「いいかげん」な人が多いのか、今年は良く分りました。

「不明高齢者」亡くなくても年金を払い続けるお役人。「普天間基地」代案もないのに移転を叫んだ政治家。「証拠捏造の地検」自分の手柄のために罪人を作る検事。「尖閣中国漁船」証拠ビデオ未公開で船長釈放を地検に押し付ける政治家。

・・・上げたらきりがありません。

でも、個人のことになると「良い加減」は必要かもしれません。何事にも白黒をはっきりつけようとするので疲れる。

特に子供が病気になったら心配するときりが無い。

そこで少し大きな気持ちを持って、「良い加減」で心配をする。看病をする。生活をする。

来年はきっと良くなる。そう信じて「良い加減」に生きましょう。

<186回 12/12 ほほえみの会> 5名の参加でした。

▽ 小学2年生男の子、急性リンパ性白血病。これまで皮下出血があり学校でいじめがあるのではないかと心配をしていた。一昨日金曜日朝、鼻血が出て止まらなくなり、近くの病院の耳鼻科に行った所、小児科に回されすぐにこども病院へ行くように言われた。白血球が11万、シビアな状態で強い治療に来週から入ると言う。

病名を知らされて2日目、まだ間違いではないかと思う。病気を受け入れられない。子供を抱えて一日泣いている。生活を奪われた感じ。母親は仕事をしていて1週間は休む予定でいるが今後仕事をどうしたらいいのか。祖父母にどこまで協力してもらえばいいのか。年長の妹は病棟に来てても兄に会えないのが不満。本当にやさしくていい息子が病気になってしまい母親としての責任を感じる。先のことを考えると不安がいっぱい。

▽ 3歳男の子、重症複合型免疫不全。昨年骨髄移植をしたが、今年の春以降、大腸に潰瘍が出来たり、急性膵炎になったり気が休まらない。薬の副作用か。また発熱があり胸に埋めているカテーテルから感染していることが分かる。一度抜いて再度入れたが2週間で発熱があり抜けてしまった。なんとか口から栄養が摂れないかと栄養士が工夫をしてくれて少し体重が増えてきた。週末外泊が出来るようになったが病院での生活が長いせいか家に帰っても喜ばない。体の調子も悪くなり親はがっかり。

病棟の看護師さんが優しいのでありがたい。前のプライマリーさんは忙しい様子であり部屋に来てくれないと思っていたが、担当が変わる前に話をすると子供のことを深く心配して面倒を見てくれていたことがわかった。疑問などがあればこちらから積極的に声をかけて話をしたほうがいいと思う。

▽ 小児がんで治療中の子供と家族に思い出作りを支援してくれるNPO法人「ジャパンハート」がほほえみの会に支援を申し出て来ています。具体的には思い出作りの旅行などにジャパンハートの医師や看護師が同行し、緊急時には必要なサポートをしてくれるというものです。無料です。対象は18歳以下で治療中、もしくは治療後1年以内の方で主治医から旅行等の企画の許可が出る方です。HPに案内を掲載しますが希望の方は池田までご連絡ください。

▽ 病気を告知された直後に、医師の説明を補足して病気や治療について理解を深められるDVD「小児がんと診断されたとき親が見るビデオ」の制作について「丸紅財団」から200万円の助成金を受けられることが決定し、過日贈呈式がありました。(11月23日の静岡新聞、毎日新聞に記事、HPに掲載)これから病院と相談をしながら、患者の立場でより分かりやすい内容のビデオを作っていきますのでご意見のある方はお寄せください。来年7月の総会までに完成する予定です。ご期待ください。

良いお年をお迎えください

次回 は1月 9日(日) 11時からです
 ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560
 E-mail アドレス k_likeda@yahoo.co.jp
 ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>